

4月は入園・入学の季節です

子どもたちを交通事故から守ろう

四月は入園・入学の季節です。新入学(園)児をおもちの家庭では、お子さんが学校や幼稚園、保育園に行く日を指折り数えてまっておられるのではないのでしょうか。何かと準備に忙しいころですが、忘れてはならないのが交通安全の教育です。

毎年、全国で約九千人の新入学児童が交通事故にあって死傷しています。また、三歳の子どもが十二歳になるまでの間に、およそ二十七人に一人の割合で交通事故にあっていきます。

交通事故にあわないために何に注意をしなければいけないのか、お子さんに教えてあげてください。幼い子どもの事故は、防ぐことのできない災害とは違い、親の保護と教育でさけることができるのです。



子どもたちには笑顔で「行ってらっしゃい！」

行ってらっしゃいの前は、子どもたちを叱ったり、忘れ物をさせたりしないようにしましょう。何といてもまだぴかぴかの1年生です。学校の時間割をそろえるのも慣れていないために忘れ物もあることでしょう。また、要領がわるいので時間がかかったりもします。こんなとき、叱ったりすると、叱られたことや、忘れ物が気になって車などに対する注意がおろそかになってしまいます。

入学前に通学路を点検

子どもたちが4月から通うことになっている通学路を事前に子どもたちと歩いて、危険な箇所を点検してください。その場で、分かりやすく子どもたちに指導してあげてください。

横断歩道は危険がいっぱい

横断歩道を渡るときは、必ず左右を確認してから渡るよう、安全確認を習慣づけるようにしてください。車のすぐ前や後ろからの横断は厳しく注意してください。

ドライバーの皆さん 気をつけて

子どもはいつ、どんな状況で飛び出してくるかわかりません。

住宅街や公園などの近くを走るときは、子どもの「飛び出し」を予測しましょう。子どもの姿を見かけたら、反対側の歩道上にも目を向けてください。

